

# みんな仲間 一緒に課題を乗り越えよう

所属	愛知県名古屋市長小幡小学校	実践者	籠谷 美紀 (L)
対象	小学6年生	時間数	20時間
場所	教室	実践教科	総合的な学習の時間
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 世界には様々な文化があることを理解し、それらを肯定的に受け入れられる態度を養う。</li> <li>・ ラオスのごみ問題をきっかけに、世界共通の課題に気づき、自分にできることを考え、行動できるようにする。</li> </ul>		
実践内容	回	プログラム	備考
	1～5	<b>『国際理解教育入門』</b> 1 クイズから世界を知ろう(世界に興味をもつ) ・ 「国名クイズ」「シルエットクイズ」「世界地図を描こう」などの活動を通して、世界の国々に興味をもつ。	世界地図 地球儀
	6～7	<b>『世界の多様性を知ろう』</b> 2 「ラオスクイズ①」(多様性に気付く①) ・ 衣食住、スポーツ、学校など、様々な様子が分かる写真クイズを通して、文化の違いや共通点を知る。	ラオスの写真 (パワーポイント)
	8	3 「こんなトイレ、知っトイレ？」(多様性に気付く②) ・ 世界には様々なトイレの仕方があることを理解し、人々はそれぞれ文化をもって生活していることを知る。	
	9	4 「なりきり〇〇(国名)紹介」(多様性を知る①) ・ 児童一人一人に異なった国の情報カードを配る。その国の人になりきり、グループの仲間に紹介する。	AIA『世界の国を知る・世界の国から学ぶ 私たちの地球と未来』
	10～15	5 世界のあれこれを知ろう(多様性を知る②) ・ 食事や服装など自分が興味をもった文化、あるいは国について調べ、ポスターにまとめる。	調べ学習 ・インターネット ・書籍
	16	<b>『誰がつくる？私たちがつくる すてきな環境』(ごみ問題)</b> 6 「ラオスクイズ②」 ・ ごみが捨てられた町の様子から、ラオスの抱える課題・現状を知る。	ラオスの写真
	17～19	7 「住みたい理想の環境を考えよう」 ・ もしも日本でごみが回収されなかったら？を考える。 ・ ごみ問題で困った環境ではなく、住みたい理想の環境を考える。 ・ 理想に近づくためには何が必要か考える。 (個人レベル・集団レベル・政府レベルそれぞれについて考える)	派生図 マトリクス 絵に表わす
	20	8 行動宣言をしよう ・ ラオスの取り組みも知り、課題解決のため、これから自分が取り組んでいこうと思うことを宣言する。	
成果	<p>児童が世界と肯定的に出会い、次の興味へと繋がることを重視して導入部分の授業を行ったことで、子どもたちは「もっと知りたい・調べた」という気持ちを強くもつことができたようだった。ラオスのごみ問題についても、他人事ではなく自分たちに引き付けて考えることができていた。</p>		
課題	<p>最後に行動宣言を考えたい際、小学生の自分たち一人一人にできることは少ないと感じている児童も見られた。小さな積み重ねが大切だと話し合ったが、実際に行動を起こし、それを継続していくためには、今後も様々な場面で考えていくことが必要であると感じた。</p>		
備考			

## [ 授業実践の詳細 ]

### 1-5 時限目「クイズから世界を知ろう」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① 「国名クイズ」…班で協力し、知っている国名をできるだけ多く書き出す。国名ではなく都市名を挙げている場合には、その違いを確認する。最後に世界にある国の数や、最近できた国などについて知る。
- ② 「シルエット・クイズ」…いくつかの国のシルエットから、それがどこの国であるのかを考える。その国の簡単な情報や国境のできた歴史的背景を知る。
- ③ 地球儀を見ながら、自分の手で世界地図を描く。

#### 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ クラスで協力すると、92カ国もの国の名前を挙げる事ができた。しかし実際にはその倍の数の国が存在していることを知らせると、「世界にはそんなに多くの国があるなんて知らなかった」「日本はすごく大きな国だと思っていたけれど、世界はもっともっと大きいんだと分かった」という感想が聞かれた。世界の広さ・大きさを感じることができた様子であった。
- ◇ また国名一覧表を教室に置いておくと、休み時間に熱心に見ている児童が多く、友達同士でクイズを出し合ったり、地球儀で実際の場所を確認したりする姿が見られた。クイズなどの活動を通して世界に興味をもつことができた。

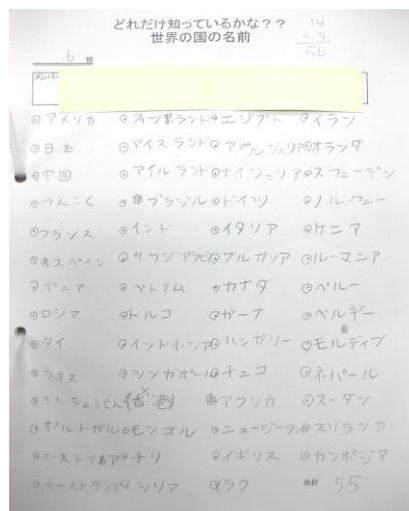
#### 3 使用した教材

<教材1>ワークシート「シルエット・クイズ」

<教材2>地球儀

#### この時限のねらい

- ・ 世界に興味をもつ。
- ・ クイズや地球儀を使って、世界全体の大きさをつかみ、一つの地球上で多くの人が生活していることを感じることができるようになる。



< 国名クイズ 作業プリント >



<地球儀を見ながら、世界地図を描く児童>

### 6-7 時限目「ラオスクイズ①」

#### 1 子どもの活動の流れ

- ① ラオスの生活が分かる写真を見る。
- ② クイズに答えながら、ラオスについて考え、知る。…町の様子、市場の様子、学校の様子、子どもたちの様子等
- ③ 感じたこと・考えたことなど、感想を書く。

#### この時限のねらい

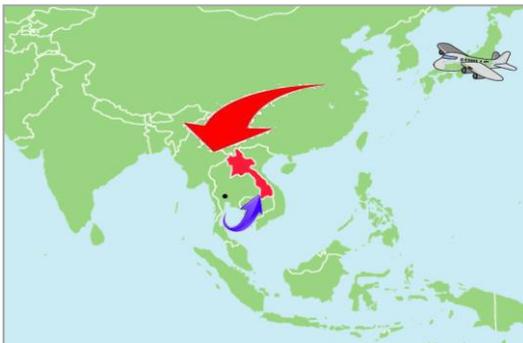
- ・ ラオスの文化に興味をもつ。
- ・ ラオスという一つの国をきっかけに、世界には様々な文化があることに、楽しみながら気付くことができる。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 本時の前にはラオスがどこにあるのか分からない児童が多かったが、終始楽しそうにクイズに取り組むことができた。ラオスの学校には給食がないことや野球は身近なスポーツではないことなど、自分たちの思っていた当たり前とは違うことに驚きながら、その違いを楽しんでいる様子であった。「生まれた曜日ごとにお参りする仏像の姿が違っていると言っていたけど、自分はどの姿の仏像に手を合わせたらいいいのか知りたい」「自分もセパタクロー(ラオスでメジャーなスポーツ)をやってみたい！」などの声も聞かれた。
- ◇ ラオスの CD ショップでは日本のアニメの音楽や DVD が多く売られて親しまれていること、ラオスの人々も米を主食にしていること、家族で過ごす時間を大切にしていることなど、自分たちと共通することがあることにも気付くことができた。

## 3 使用した教材

<教材3> パワーポイント ラオスの写真



クイズ これは何をに入れるものでしょう

- ① 小物
- ② お金
- ③ ご飯
- ④ 夢



答え ④ キー プ



## 8 時限目「こんなトイレ、知っトイレ？」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① クイズ「何を表した言葉でしょう？」…様々な国の言葉で「トイレ」と書かれたカードを見て、その文字が何を表しているのかを当てる。
- ② クイズ「実は日本だけ？トイレの秘密」…日本のトイレの写真を見て、世界のトイレにはない日本のトイレ独特の特徴を考える。知る。

### この時限のねらい

- ・ トイレという、誰もが必ず使う物から、世界の文化の違いを知る。
- ・ 文化に違いがある場合、どちらかが優れていてどちらかが劣っていると考えるのではなく、どちらも尊重しようとする気持ちをもつことができるようにする。

- ③ クイズ「世界では何でお尻をきれいに行しているでしょう？」…紙、葉っぱ、水で洗う などお尻の拭き方一つでも様々な方法があることを知る。
- ④ 「世界のトイレを見てみよう」…世界のトイレの写真を見る。トイレの中に水を張ったバケツが置いてあったり、シャワーが付いていたりするなど、国によって様々な様式があることを知る。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 日本のトイレに世界にはない特徴があるとは知らない児童が多かったため、世界(外)に目を向けるだけでなく、自国の文化にも新しい発見があり、文化を学ぶことはおもしろいと感じられた児童が多かった。
- ◇ 手を使って水でお尻を洗う文化もあることを紹介する際、初めは「え～！」という否定的反応をする児童もいるだろうと予想していた。しかし「なるほど。そういう国もあるかもしれない。」「それはどこの国ですか？」という反応が返ってきた。実際にそのような場面に出会ったとき、自分も同じ方法でやってみようと思えてきたのは分らないが、とても柔軟な頭と感覚で、多様な文化を受け入れていることが感じられた。

## 3 使用した教材

<教材4>日本のトイレの写真      <教材5>世界の様々なトイレの写真 「世界トイレ情報」



## 9 時限目「なりきり〇〇(国名)紹介」

### 1 子どもの活動の流れ

- ① ある国についての情報が書かれた用紙を一人一枚読む。(内容は一人一人違う。)
- ② 自分が読んだ情報の中から、特にみんなに知らせたいと思う内容を選ぶ。
- ③ その国の人になりきり、国の特産物や習慣などの情報を紹介する。紹介は4～5人ずつのグループ内で順番に行う。
- ④ 「なりきり〇〇紹介」をしたり、聞いたりした感想を共有する。

#### この時限のねらい

- ・ 一つの国に注目し、そこから文化の多様性を感じる。
- ・ 環境や歴史的背景などにより、それぞれの国は様々な文化をもっていることに気付く。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 初めに一人一人が資料を読んだことで、じっくりと一つの国について知ることができた。そして、自分が驚いたり素敵だなと思ったりした内容について、自信をもって話すことができたようだった。また無作為に選んだ国について紹介したのだが、この活動がきっかけとなり、名前も知らなかった国に興味をもち、さらに調べてみたいという意欲をもつことに繋げることができた。
- ◇ 「世界には様々な文化がある」とはいても、どんな切り口があるのかなかなか思い浮かばない児童が多かったが、教材を使って学習をしたことで、地形や気候、歴史など文化の背景となる環境(要因)が様々なことに気づくことができた。

## 3 使用した教材

<教材6> (公財)愛知県国際交流協会『世界の国を知る・世界の国から学ぶ わたしたちの地球と未来』

# 10-15 時限目「世界のあれこれを知ろう」

## 1 子どもの活動の流れ

- ① 自分が興味をもち、深く調べてみたいと思う内容(文化や国)を一つ決める。
- ② 書籍やインターネットを活用して情報を集める。
- ③ 調べた内容をポスターにまとめる。
- ④ 一人ずつ、調べた内容を紹介する。

### この時限のねらい

- ・世界は多様性にあふれていることを理解し、興味関心をもって自分で調べることができる。
- ・世界の文化に親しむことができる。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 自分で調べ学習をする前に、様々なクイズなどで世界の文化について知ってきていたため、児童それぞれが多様な視点で、興味をもったことを調べることができた。「実際に世界の遊びをやってみたいね」「もっともっと調べたい」といった声が多く聞かれた。

# 16-17 時限目「ラオスクイズ②」

## 1 子どもの活動の流れ

- ① 一部が隠されたラオスの町中の写真を見て、隠されているものは何かを考える。(隠されているものはゴミ。)
- ② なぜ、ラオスの町には多くのゴミがあるのかを知る。…ラオスではもともと土に戻らないゴミはほとんど出さない生活をしてきており、ゴミ箱にゴミを捨てる習慣や、ゴミを回収する仕組みがない(必要ない)生活であったことを学ぶ。現在ではプラスチックごみが増え、土に戻らないようになったが、生活習慣が変わっていないため、町にゴミがあふれてしまっているという現状を知る。

### この時限のねらい

- ・身近に感じられるようになった国(ラオス)が、良いところだけではなく、課題(ゴミ問題)も抱えていることを知り、どんな解決策があるか考えることができる。

- ③ 「もしもゴミが回収されなかったら？」…ゴミが回収されることが当たり前の生活を送っている日本の子どもたちには、ゴミが回収されなかったらどのような状態になるのか想像することが難しい。そこで、グループで「もしもゴミが回収されなかったら？」をテーマにして派生図をかく。ゴミ問題は解決しなければならない大きな課題であることに気付く。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ ラオスクイズ①を通して、児童はラオスに対してプラスのイメージをもつことができていた。そのため今回のクイズに対しても「動物がたくさんいたから、隠れているものは猫じゃないかな。」など、初めは穏やかなラオスの姿をイメージしていた。しかし実際にはゴミが町中のあちこちにある様子が隠されていたと知ると驚き、「どうしてこんな状態になってしまったのだろう」「このままではいけないね」と、どうにか現状を変えたいと考えることができていた様子であった。
- ◇ 「ゴミが回収されなかったら」どうなるか考えたときには、「くさい」「じゃま」などから始まり、「環境が悪化」して「病気になりやすくなる」や、「見た目が悪くなる」ために「観光客を呼べなくなる」など、関連して起こる悪影響についても考えることができた。



## 3 使用した教材

<教材7>

ラオスの写真  
まちなかのゴミ



# 18-20 時限目 「住みたい理想の環境を考えよう・行動宣言をしよう」

## 1 子どもの活動の流れ

- ① 「日本の中のゴミ問題」…ゴミが回収される日本の中でも、タバコのポイ捨て、不法投棄、出しているゴミの量の多さ、まだ食べられる食品が大量に処分されていること、最終処分場の容量の限界など、ゴミ問題が存在することを知る。
- ② 「理想の環境を描こう」…ゴミがあふれた環境ではなく、みんなが住みたいと思う環境とはどのようなものであるか考え、グループで協力して、模造紙に理想の環境を描く。描いた内容はグループごとに発表し、共有する。
- ③ よりよい環境にするために、ラオスで実際に取り組まれている活動を知る。
- ④ 理想の環境を実現させるために、自分にできることを考え、発表する。

### この時限のねらい

・日本の中にもゴミ問題が存在することを知り、自分たちにどんなことができるか考える。

## 2 子どもの活動の成果・反応

- ◇ 理想の環境を描く活動では、「川には魚や生き物がたくさんいてほしいよね」「そのためには河原をきれいにしなくてはいけないね」「じゃあ河原の清掃をしよう」「そもそもゴミが出ないように、ビニール袋をもらわないようにすることとかもいいんじゃない？」と、次々と考えを繋げ、模造紙いっぱい絵を描くことができた。「こんな環境にしたい！」という思いを強く抱くことで、そのために必要な行動を積極的にとろうとする態度に繋がっていくのではないかと感じられた。
- ◇ ラオスでは、レジ袋を使わないエコバスケット(エコバック)を広めようとしていること、コンポストを使って自家処理を行っていることなどを知り、その国に合わせた方法で、一人一人ができることを行っていくことが大切であると考えることができた。

## 3 使用した教材

<教材8>ラオスの写真



「エコバスケットの説明を聞く人々」



「エコバスケット」

## ■ 全体を通して

### 1 授業の様子

<写真1>自分にできることを書きだす児童



<写真2>理想の環境を描く児童



<写真3>理想の環境を紹介する児童